



「二十歳を祝う会」素晴らしい会になりました

1月19日(日)、八代支援学校で、二十歳を祝う会を催しました。今回は令和4年度に卒業した17期生7人中5人が参加しました。また、17期生が在学中に担当された先生方の参加もあり、「わ～大きくなったね」「懐かしいね～」など、久しぶりの再会を喜び合う場面が見られました。開会前には高等部時代の17期生たちの活動写真がスクリーンに映し出されていて、会場に入るなり、にっこり笑顔で懐かしげに見入っている方もいました。近況報告のコーナーでは、「一人暮らしのために、少しずつ料理を始めました」、「お給料をためて、お世話になっているおばあちゃんが好きな物を買ってあげたい」「事業所ではスタッフと同じ色のTシャツを着て活動していて、スタッフとして働きたい気持ちがあるようです」など話がありました。それぞれが日々経験を積むことで視野が広がっていたり、自立への気持ちが高まっていたりして、しっかりと成長の階段をのぼっていることが伝わりました。短い時間でしたが、晴れ着姿で誇らしげに母校に来てくれた17期生の今後の活躍を心よりお祈りします。素晴らしいお祝いの会となりました。(文責:高等部 ブラッシュ鳥越)



【インタビューに答える17期生と参加者全員による集合写真】

仕事への意欲 ～事業所の方のお話より～

先日、ある就労継続支援A型事業所に見学に行ってきました。仕事場の案内や仕事の内容について説明された後、案内してくださったサービス管理責任者の方が『仕事への意欲があること』『あいさつができること』『時間(約束)が守れること』。この3つができれば、うちでやっていけるといいます。」と話されました。さらに「仕事の意欲」については、「ここに行くと自分の仕事がある」と思えることが「仕事に行こう」という意欲になっていきます、と話されました。

「自分の仕事がある」という状況は、学校では「係の仕事」が同じ状況です。係の仕事をする、そのことに気づいた人たちから「ありがとう」と言われます。「ありがとう」と言われると役に立てた感じがして、次への意欲になります。このような経験の積み重ねが、仕事への意欲につながっていくのではないかと考えます。家庭であれば「お手伝い」です。タオルたたみやくつ並べなどできることを少しお願いしてみてもいいのではないでしょうか。



(文責:高等部 松岡)